

11月2日(日) 第9回 KHJ 愛知大会

～若者に希望・家族に元気・支援者に
役割 大成功で終わる～

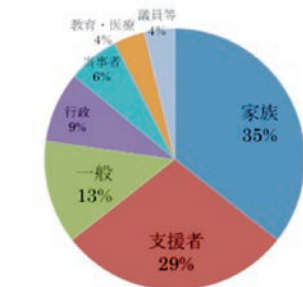


KHJ愛知大会は、2014年11月2日12時より、愛知県名古屋市のウインク愛知ホールで、厚労省、内閣府、愛知県、名古屋市中区、日新聞の後援、参加280人で開催されました。

総合司会を名古屋オレンジの会山田孝介理事長が担当、池田理事長の開会挨拶、大村秀章・愛知県知事と山本博司・参議院議員に来賓挨拶を戴きました。メイン会場では、

①基調報告、
②シンポジウム、
③ひきこもり大学が行われました。

ひきこもり大学と平行して分科会「兄



参加者の構成

KHJ活動を全国の仲間と成功裏に推進するために、全国支部長会議が開催されました。その要旨を掲載します。(編集長・伊藤進)

愛知での大会は8年ぶり、2006年、私も国会議員として参加させて頂きました。もう8年経ったのです。その時と比べると参加者が増えているように思います。皆さんの活動の輪が広がっており素晴らしいことだと思います。地元オレンジの会、なでしこの会をはじめ全国からの皆様に心から敬意を表します。

KHJ親の会の皆さんは、ひきこもりの当事者や家族の皆さんのよき相談相手として多大なご尽力を賜っており、敬意を表します。

この愛知でも、精神保健福祉センターをひきこもり地域支援センターとして位置づけ、専門の相談窓口を設置している他、保健所においてもご家族の相談を受ける体制を整えておりま

愛知での大会は8年ぶり、2006年、私も国会議員として参加させて頂きました。もう8年経ったのです。その時と比べると参加者が増えているように思います。皆さんの活動の輪が広がっており素晴らしいことだと思います。地元オレンジの会、なでしこの会をはじめ全国からの皆様に心から敬意を表します。

KHJ親の会の皆さんは、ひきこもりの当事者や家族の皆さんのよき相談相手として多大なご尽力を賜っており、敬意を表します。

この愛知でも、精神保健福祉センターをひきこもり地域支援センターとして位置づけ、専門の相談窓口を設置している他、保健所においてもご家族の相談を受ける体制を整えておりま

愛知での大会は8年ぶり、2006年、私も国会議員として参加させて頂きました。もう8年経ったのです。その時と比べると参加者が増えているように思います。皆さんの活動の輪が広がっており素晴らしいことだと思います。地元オレンジの会、なでしこの会をはじめ全国からの皆様に心から敬意を表します。

KHJ親の会の皆さんは、ひきこもりの当事者や家族の皆さんのよき相談相手として多大なご尽力を賜っており、敬意を表します。

この愛知でも、精神保健福祉センターをひきこもり地域支援センターとして位置づけ、専門の相談窓口を設置している他、保健所においてもご家族の相談を受ける体制を整えておりま

愛知での大会は8年ぶり、2006年、私も国会議員として参加させて頂きました。もう8年経ったのです。その時と比べると参加者が増えているように思います。皆さんの活動の輪が広がっており素晴らしいことだと思います。地元オレンジの会、なでしこの会をはじめ全国からの皆様に心から敬意を表します。

KHJ親の会の皆さんは、ひきこもりの当事者や家族の皆さんのよき相談相手として多大なご尽力を賜っており、敬意を表します。

この愛知でも、精神保健福祉センターをひきこもり地域支援センターとして位置づけ、専門の相談窓口を設置している他、保健所においてもご家族の相談を受ける体制を整えておりま

愛知での大会は8年ぶり、2006年、私も国会議員として参加させて頂きました。もう8年経ったのです。その時と比べると参加者が増えているように思います。皆さんの活動の輪が広がっており素晴らしいことだと思います。地元オレンジの会、なでしこの会をはじめ全国からの皆様に心から敬意を表します。

KHJ親の会の皆さんは、ひきこもりの当事者や家族の皆さんのよき相談相手として多大なご尽力を賜っており、敬意を表します。

この愛知でも、精神保健福祉センターをひきこもり地域支援センターとして位置づけ、専門の相談窓口を設置している他、保健所においてもご家族の相談を受ける体制を整えておりま

愛知での大会は8年ぶり、2006年、私も国会議員として参加させて頂きました。もう8年経ったのです。その時と比べると参加者が増えているように思います。皆さんの活動の輪が広がっており素晴らしいことだと思います。地元オレンジの会、なでしこの会をはじめ全国からの皆様に心から敬意を表します。

KHJ親の会の皆さんは、ひきこもりの当事者や家族の皆さんのよき相談相手として多大なご尽力を賜っており、敬意を表します。

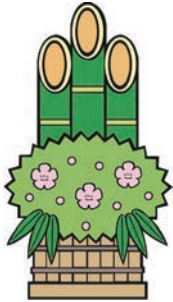
この愛知でも、精神保健福祉センターをひきこもり地域支援センターとして位置づけ、専門の相談窓口を設置している他、保健所においてもご家族の相談を受ける体制を整えておりま

全ひき連ニュース

旅立ち

ひきこもり

NPO 法人 全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会) 代表 池田 佳世
第 76 号 発行日 平成 27 年 1 月 5 日(月) 〒 170-0002 東京都豊島区巣鴨 3-4-4
Tel 03-5944-5250 FAX 03-5944-5290 http://www.khj-h.com
Facebook : http://www.facebook.com/khj.ho / Twitter : http://twitter.com/hikikomori_khj



全国の皆様 あけまして おめでとうございます



池田佳世理事長

本年もひきこもり当事者家族によりよい生活ができますように皆様と一緒に行動していきます。

全国大会の後、KHJ福岡の会、青森さくらの会、岐阜鶴の会が誕生しました。新年には、津に三重の支部が出来る予定です。

本年も引き続き、困難をきわめ何処にもつながらないひきこもりの家族のため、ひきこもりサポーター研修・派遣事業が、日本全国何処の自治体でも行なわれるように皆で声を掛けていきましょう。生活困窮者自立支援法の中にひきこもりも入っていますので、ピアサポーターが活躍できるような繋がりを求めて行きましょう。香川オリーブの会では、県知事に7項目の要望書を出しました(別項参照)。

愛知大会で青年の生の声が聞けました。日本財団に、南から北まで当事者の声が聞けるように新事業を提出しました。支援する側と青年の声が一致するように願っています。

各支部では、当事者の働く場所をつくる為に、自主事業を考えられますようにお願いします。

池田佳代理事長の開会挨拶

「助けてー」と行政や社会に声を大きく



池田理事長は「昨年の福岡大会は『新しい流れ』で開催し、今年、愛知県大会は『変化するひきこもり支援』で開催します。家族会を取り巻く社会が変化してきています。私たちは、我が子が幸せに生きられるように、『助けてー』と行政や社会に声を大きくして行くではありませんか。」と開会挨拶をしました。

来賓挨拶

愛知県知事・大村秀章氏
「ひきこもり対策をしっかりとやります」

参議院議員・山本博司氏
「生活困窮者自立支援法で財源も充分」



基調報告 「KHJこの一年の取り組み」

報告は三人、中垣内正和副理事長はKHJ15年の活動の教訓と今後の課題を、上田理香(KHJ本部事務局)は昨年KHJが取り組んだ「ピアサポーター養成研修・派遣モデル事業」について、野中俊介(本部事務局)は「ピアサポーター養成研修・派遣モデル事業」と平行して行った「調査報告」について行いました。上田さんと野中さん報告は旅立ち(75号)を参照して下さい。



中垣内報告
親の会は「新しい社会づくりの担い手」として期待されている

いささか文学的な表現ですが、「希望のひきこもり」といえるような状況になってきたお話をします。

KHJ親の会は、さいたま岩槻市でH11年、奥山雅久氏によって立ち上げられ、その後7回の全国大会などを行い、ひきこもり問題の解決に努力してきました。H21年「子ども若者育成支援推進法」の成立、H22年には厚労省の「ひきこもりガイドライン」の策定がありました。

H23年奥山さんが亡くなり、大震災の後にKHJ親の会は新体制となり、池田さんが会長になりました。愛知県の蒲郡で全国支部長会議を開催し、今まで通り力をあわせて活動を継続してゆくことが確認されました。

H24年度には、第7回京都整備されました。ひきこもりの支援も法的裏付けのある中で、しっかりとサポートできると思います。私たちも全力で応援していきます。

同8月、厚労省「全国ひきこもり担当者会議」において、KHJ親の会は1時間にあたるプレゼンを行い、行政、ひきこもり支援センター、親の会が手を結ぶ・協働することが確認されました。長

「生活困窮者自立支援法」の自立支援機関・相談員の担い手としても、私たちは期待されています。KHJと行政、ひきこもり支援センターが協力・連携するとう、まさに「産官民学の連携」の図式が動き出したのです。

「課題1」構造化・事業化の必要性
このような新しい段階になり、私たちは多くの新しい課題、取り組むべき課題、工夫すべき課題を得たと思われま。社会的ニーズの高まりに対応した新たな親の会づくりが必要になってきました。

「課題1」構造化・事業化の必要性
このような新しい段階になり、私たちは多くの新しい課題、取り組むべき課題、工夫すべき課題を得たと思われま。社会的ニーズの高まりに対応した新たな親の会づくりが必要になってきました。

「課題1」構造化・事業化の必要性
このような新しい段階になり、私たちは多くの新しい課題、取り組むべき課題、工夫すべき課題を得たと思われま。社会的ニーズの高まりに対応した新たな親の会づくりが必要になってきました。

「課題1」構造化・事業化の必要性
このような新しい段階になり、私たちは多くの新しい課題、取り組むべき課題、工夫すべき課題を得たと思われま。社会的ニーズの高まりに対応した新たな親の会づくりが必要になってきました。

「課題1」構造化・事業化の必要性
このような新しい段階になり、私たちは多くの新しい課題、取り組むべき課題、工夫すべき課題を得たと思われま。社会的ニーズの高まりに対応した新たな親の会づくりが必要になってきました。

「課題1」構造化・事業化の必要性
このような新しい段階になり、私たちは多くの新しい課題、取り組むべき課題、工夫すべき課題を得たと思われま。社会的ニーズの高まりに対応した新たな親の会づくりが必要になってきました。

基調報告前面からの続き

その一つは支援力のさらなる強化です。二番目に「ひきこもりピアサポーター」養成事業の継続です。三番目には、Café、レストラン、栽培、シェアハウスなど中間的就労機能を持つ居場所を沢山作る必要があります。第四に、本部財政の確立です。第五には、さまざまな助成事業を受ける工夫があげられます。

【課題2】新規加盟の基準の検討

これまでは1県1支部体制でしたが、ここ2年間に7支部の新加盟があり、支部は急増中です。加盟のしかたには、新規立ち上げの会以前の経過から参加できなかった会、のれん分けの会などがありますが、1県1支部では足りない社会的ニーズが生まれており、その原則の見直しを考えると来ています。

【課題3】相談支援マニュアルの作成

私たちは15年間の活動で多くのノウハウを蓄積しています。池田さんの「学習会」、境さんの「クラフト」、中垣内の「ステップ」、鈴木さん、石川さんの「訪問活動」、中村さん、伊藤進さんの機関紙発行、伊藤正俊さんの「レストラン」、松本さんの「シイタケ栽培」などの取り組みや全国各支部の親の会と居場所の運営経験が蓄積されてきました。

また、他団体に類を見ない「ネットワークのなかの自由さ」によって、問題解決の能力を身に付けてきました。それをマニュアル化して、日

本社会におけるひきこもり対応の共通のテキストとして提起してもよい段階に来ています。新しい「生活困窮者自立支援法」の相談支援員のマニュアルを作る実力がKHJ親の会にはあるのです。



【課題4】若者との協働の推進

当事者がピアサポーター養成研修に大勢参加して来ています。「ひきこもり大学」に見られるように、当事者たちが実際に多く動いてきています。

KHJ親の会での若い人の立場と位置付けははっきりしていませんでしたが、どう若い人たち・エネルギーを持つ人々と協働していくか、当事者だけで作っているNPOと協働してゆかという大きな課題が出てきています。

ひきこもりの若者は大切な社会の後継です。そして、ひきこもりから脱した当事者の経験は社会の財産です。15年、16年と取り組んできた親たちの苦しみと努力の軌跡もまた、社会の大切な財産です。脱ひきこもりの

シンポジウム「変化するひきこもり支援～多様な立場からの提言～」



司会の牟田武生氏

司会はNPO法人教育研究所理事長・牟田武生先生、パネリストは6人（敬称略）、当事者代表・小玉康夫、家族代表・土田芳次、愛知教育大・川北稔、厚労省から、社会援護局総務課課長補佐・荒川英雄、社会援護局総務課課長補佐・日野徹、労働基準局安全衛生部長・半田有道の各氏から10分・20分の提起があり、後半は司会からの質問にパネリスト



「今は訪問する側で活動」当事者代表・小玉康夫さん



「定年を期に猛勉強」家族代表・土田芳次さん



「社会全体の曲がり角と関係」愛知教育大・川北稔さん

現在、就労継続支援A型事業所で働いています。38歳になりました。学生時代に不登校、10年間社会的引きこもり、20代半ばにオレンジの会を知り、32歳から継続して出かけ、4年間お世話になりました。30歳であせりが出て、お誘いの連絡もあり、新しい場所に参加出来ました。それから目標が生まれ、リズムが出来て、責任ある仕事も与えられ、訪問する側で出かけました。今後は困った人に元気を与えて行きたいと思っています。

当事者の親として、子どもにどのように向き合ってきたか6点報告します。当事者の成育状況、初期の混乱と対応、精神保健治療の対応、就労への初期対応、父親としてやったこと、父親のゴウと当事者の生きずらさです。息子は現在39歳、某大学の薬学部卒、2年後薬剤士に合格、5年間就職できず、父親は理解できず、「鬱みたい」と言われ。母親とは生き別れで、彼とは小三から二人での生活です。初期の私は叱責ばかり…。定期を期に精神科に同行、彼の苦しみに寄り添い、沢山の本を読んだ。二人で親の会へ参加し、彼は模索中です。

ひきこもりの悩みは、家族や当事者だけでなく、日本社会全体の曲がり角と関係していると思います。

「21世紀は幸福度を追求する世紀」荒川英雄さん



私は「がんばる」を使わない方がよいと思います。他者が他者に「がんばれ」は「我を張る」が語源ですから嫌いです。1980年、厚労省の学識研究者などの研究会で「自立」という概念が定義さ

8年未満の73%へと、就労は右肩上がりで増えていきます。これは、本人の希望・やりたい事を見据えた上での就労支援・社会参加支援をしてゆくことが大切なことを示しています。そして、支援の仕方として、親の会を継続し、居場所参加を継続することが有効であることが示されたのです。

私は「がんばる」を使わない方がよいと思います。他者が他者に「がんばれ」は「我を張る」が語源ですから嫌いです。1980年、厚労省の学識研究者などの研究会で「自立」という概念が定義さ

20年前から失業率が上昇東大を出てもニートになるという厳しい時代です。福祉政策も手薄で、KHJの取り組みがトップランナーです。日本社会全体の曲がり角として、標準的なライフコースから排除される層に新たな「社会的包摂策」が必要とされるようになった。生き方では「半就労・半福祉」が普通になればと考えています。

れました。「主體的・自己決定的に生きる」「自由な地域社会での生活」「自己実現の追及」「福祉の主体的利用」…などです。対応は「OOL」でなく「OOなら」、住民参加と行政との協働で対応を。21世紀は幸福度を追求する世紀です。70万のひきこもりは氷山の一角です。皆さんの経験知で同じようにはさせない世の中を、我々も微力ながらお世話させて頂きます。

（3面に続く）

促進とともに、親の会をどのように営んで行くか、今ほど強く問われているときはないと思います。

ひきこもりの若者は大切な社会の後継です。そして、ひきこもりから脱した当事者の経験は社会の財産です。15年、16年と取り組んできた親たちの苦しみと努力の軌跡もまた、社会の大切な財産です。脱ひきこもりの

ひきこもりの若者は大切な社会の後継です。そして、ひきこもりから脱した当事者の経験は社会の財産です。15年、16年と取り組んできた親たちの苦しみと努力の軌跡もまた、社会の大切な財産です。脱ひきこもりの

ひきこもりの若者は大切な社会の後継です。そして、ひきこもりから脱した当事者の経験は社会の財産です。15年、16年と取り組んできた親たちの苦しみと努力の軌跡もまた、社会の大切な財産です。脱ひきこもりの

ひきこもりの若者は大切な社会の後継です。そして、ひきこもりから脱した当事者の経験は社会の財産です。15年、16年と取り組んできた親たちの苦しみと努力の軌跡もまた、社会の大切な財産です。脱ひきこもりの

不登校・ひきこもりの方も安心

教育理念『1/1の教育』

全生徒一律ではなく、1人1人の生徒を育みます。

生徒第一…だから

生徒1人1人と向き合う

「1/1の教育」で生徒の自信と意欲を養います。

通信制高校（広域通信・単位制）

第一学院高等学校

4月よりウィザス高等学校・ウィザス ナビ高等学校から学校名を変更し、生まれ変わりました

TEL 0120-761-080 www.daiichigakuin.ed.jp

全国76キャンパス（平成24年3月現在）

ルポ「ひきこもり」

価格8800円

FAX 048(756)7802

行き詰まり、迷走を深める時代の狭間において、何とか活路を見出したいと願う方々に、問題の本質的な解決の方向を提言する書として本書をお薦めします。

推薦のこぼし 精神科医・医学博士 中垣内正和

無料（通話料は自己負担）

引きこもり電話相談

☎ 03-5319-1430

火・木・土 PM1:00～5:00

第4土曜・祭日休み

KHJホットライン

訪問サポーター士養成

教本（基礎編）

価格10000円

FAX 048(756)7802

ひきこもり理解への必読所として

教育理念『1/1の教育』

全生徒一律ではなく、1人1人の生徒を育みます。

生徒第一…だから

不登校・ひきこもりの方も安心

第一学院

高認・大学受験予備校

4月より第一高等学院から学校名を変更し、生まれ変わりました

通学科 通信科

TEL 0120-936-358 www.daiichigakuin-kounin.jp

社会不安障害総合情報サイト

SADとは「Social Anxiety Disorder」の略称。社会不安障害と呼ばれる病気のことで、

SAD NET

人前で話したり、食べたり、書いたりしようとする、不安や恐怖をおぼえて赤面する、汗が出る、震えや口の渇きがおきる。本人がどんなに苦しくても周りにはなかなかその辛さが伝わらない。この症状、実は脳内物質に関する機能異常による病気の可能性が高いのです。

・おおよそのSAD（社会不安障害）をチェック可

・どこへ行けば治療して貰えるの？

全国2500ヶ所のSAD対応病院が検索できます。

社会不安障害の総合情報サイト

URL: http://www.sad-net.jp/

シンポジウムの続き

「思いやりのある社会の復活を」 日野 徹さん



ひきこもりの要因はさまざまですが社会的要因が大きい。日本社会は、効率性・経済性の優先、個人主義、核家族化、学歴主義・成績主義、成果主義で、社会的価値観が大きく変化し、人間に対する思いやりや助け合い、「お互い様」おかげさま」などかつて日本社会が持っていた良き物が経済大国になる中で薄れてしまった。

様々な要因が複合的に関係しているため、何が要因か突き止めることは適切ではない。当事者の置かれた状態・状況をシッカリ捉えて、心を寄り添えて、再び社会参加が出来るように手を差し伸べることです。

住み慣れた地域における包括的支援(相談、医療、教育、就労、福祉、生活など)が必要で、なかでも家族支援が重要です。家族支援ではKHJは大きな役割があります。なぜなら親の会の方々は、辛く・厳しい社会的孤立を経験しているからこそ苦しさを心より共感でき、辛い・厳しい経験をしたからこそ、一人ひとりの人間性・生き方をより大切に出来るのです。現在、国が行っているひきこもり支援事業は、地域支援センター、サポーター養成研修、派遣があります。

今後の課題は、来年4月から「生活困窮者自立支援法」

ひきこもり大学

当事者が先生、生徒は親や家族や支援者



池上 正樹さん

が施行されます。住み慣れた地域における包括的支援として実施主体は市町村になり、自立支援相談機関が設置され、包括的な支援が行われます。ひきこもりも対象になり支援が行われます。こうした施策を進める上で大事なことは、当事者団体・支援団体、行政の密接な協力・連携が必要です。そして、忘れてはならないのが人を思いやる心です。一人ひとりが暖かい心を持って、かつての日本社会が持っていたこうした人に対する思いやりのある社会の復活です。人の心に手を差し伸べて心を癒すことが出来るのは、最後は人です。私の好きな言葉に「他人と過去は変えられない、しかし、自分と未来は変えられる」です。皆さんと協力して、より良い社会、住み良い社会、人間らしい社会を作って行きたいと願っています。

進行の池上正樹さん(ジャーナリスト)が「ひきこもり大学」について説明しました。17年前からひきこもりに関わり、2年前に「ひきこもり大学」が生まれました。

・目的は、ひきこもっている本人が先生になって、ひきこもっていた経験や知識・知恵を親や家族などに伝えることによって、周囲の誤解を解き、家族関係を改善していくことです。特徴は、当事者のネガティブと思われる「空白の履歴」の経験や知識、知恵を価値に変えること。先生は、授業で話したい、伝えたいテーマで自由に学科をネーミングできます。

「社会援護局の支援は非常に良い」 半田有道さん



今年の4月まで安全衛生部長をしておりました。今日は十数年前から8年前まで取り組んだ「若者サポーターセッション」についてお話しします。私はH14年、キャリアー支援室長になり、当時の社会情勢での問題は、中高年失業者でした。キャリアコンサルタント5万人事業を行い、そのあと、フリースター対策、ニート対策

り上げられました。池上さんの説明の後、Iさんの体験談がありました。が、個人情報保護の為省略し、Iさんの「参加者の皆さんへのご挨拶」の一部を紹介いたします。

ーさん「参加者の皆さんへのご挨拶」



ひきこもり大学
メンタルヘルス学部

ひとが誰かに対して出来ることは、ただ一つです。その人の隣で、自分が誇れる生き方をしようと努力し続けること。見た目や借り物の価値観に惑わされることなく、命をありのまま尊重し心の目で見て心の耳で聞き、自分のあり方を常に考える。互いのありのままを尊重し支え合う生き方以上に、価値のあることなどこの世にありません。自分を見つめ、考え続けることができる場所に、停滞は起こりません。

を9億円で行いました。これは焼け石に水でした。H21年、子ども若者支援推進法ができて、私はとても期待しておりました。ネットワーク支援する為に、個人情報共有することですが、個人情報保護法が出来たためになりました。社会援護局で包括的支援に乗り出されたのは非常に良かったと思っています。

第九回愛知大会を終えて
大会委員長 オレンジの会 鈴木美登里



一年間にわたる準備期間で学んだことを次へ手渡していく必要性を強く思いました。以下の事柄を次に開催予定の香川オリーブの会へ伝えました。

① 大会を実行の実行委員を務めるにあたり、本部役員(理事)と内容の検討を早期に行うこと。

② 大会のテーマを本部と調整したら、大会の開催場所を確保し、支部長会や分科会の選定を調整し依頼すること。講師の場も確保すること。

③ 事務局の準備した一切の資料(講演依頼、レジュメ、後援依頼、予約受付表、会計など)を引き継ぐこと。

少しでもノウハウを伝え共有し、意義ある大会の実行委員を多くの支部が受けていただけるように願います。

次回、第10回全国大会
香川県・オリーブの会主催
2015年10月3日
(土)11月1日(日)開催

分科会「兄弟姉妹の会」親の高齢化を中心に思いを語る

ひきこもり大学と平行して、分科会「兄弟姉妹の会」親の高齢化を見据えて」は名古屋オレンジの会が運営する「喫茶店NOAH」にて開催されました。参加者は17名。2グループに分かれ親の高齢化を中心に予定時間を大幅に過ぎるほど思

香川県オリーブの会

ひきこもり支援で知事と県議会議長に要望

県議会満場一致で採決



会は11月21日、ひきこもり支援で香川県知事と県議会議長に要望書を提出し懇談。要望は12月19日の県議会に提案され、地方自治法第99条の規定により「国においては、ひきこもり問題の早期解決のため、ひきこもりに苦しむ本人や家族を支援するための法整備並びに具体的な施策に対する専門的・技術的支援及び財政的支援を行うよう強く要望する」が満場一致で採択された。下記に香川県知事宛の要望書を掲載します。

第9回全国大会、愛知大会宣言

私たちは、第9回全代研、愛知大会において以下の事項を討議し決定したので、ここに宣言する。

① 私たちは、ひきこもり家族(親や兄弟姉妹)と、当事者が幸せに生きていくために、引き続き創意工夫をこらして活動していくことを決意する。

② 私たちは、家族会が困難を乗り越えて実践してきたことが、国のひきこもり関連事業に反映されることを要望し見守る。

③ 私たちは、ひきこもり支援の年齢枠が日本中どこでも撤廃され、ひきこもり対応事業が地域単位、市町村単位にまで広がり、家族会と連携すること、そして、ひきこもり当事者が幸せに生きていけるようになることを要望し見守る。

④ 私たちは、一貫したひきこもり対応が日本社会再生の鍵となると考え、「ひきこもり対策の法整備の拡充を要望する。

⑤ 私たちは、ひきこもり当事者たちの声を聞き、当事者たちが安心して働ける事業を作ることを決意する。私たちは、以上の項目を産官民学協同して実現し、共生社会・つながり社会の創出を担うことを決意する。

弟に負担がかからないようにしたい」等、様々な立場からの意見交換ができた貴重な会となりました。名古屋オレンジの会のご好意で美味しいコーヒーとケーキサービスもあり温かい雰囲気の中で会を進める

(7項目の詳細は省略)

香川県知事

浜田 恵 造 殿

平成26年11月21日

団体名 NPO法人KHJ

香川県オリーブの会代表者

川井 富枝

要 望 書

私たち、社会的ひきこもりの子供をもつ親たちは、2002(平成14)年に「全国ひきこもりKHJ親の会」の支援のもと四国で最初に親の会「KHJ香川県オリーブの会」を結成。それまで、誰にも相談できず家庭の中で悶々として苦悩の日々を送ってきたが、この会の結成以来今日まで、月に一度の例会を一度も欠かさず開催する等互いに子供の状況を理解するための学習やお互いの悩みを語り合い励ましあいながら今日まで会の運営を地道に続けてきました。

この間、国も全国のひきこもり実態調査の実施や「子ども・若者支援推進法」の整備、2010(平成22)年には「ひきこもり支援のガイドライン」の策定などを行ってきました。現在、ひきこもり世帯は、内閣府調査で約70万世帯、厚労省の調査でも26万世帯、香川県内には2000世帯という数値が出ています。しかし、実際はその2倍、3倍以上いるものと思われます。

NPO法人全国ひきこもりKHJ親の会(家族会連合会)が厚生労働省の社会福祉推進事業の助成を受け行った、平成25年度の調査結果によると、ひきこもり本人の平均年齢は33歳、家族の平均年齢は62歳であり、高齢化が示されており、ひきこもり期間も10年以上とひきこもりの長期化が示

されております。香川県においては、2011(平成23)年6月ひきこもり相談の専門窓口として、香川県精神保健福祉センター内に「ひきこもり地域支援センター」を開設計専門職員を配置したことは大いに評価させていただいているところです。

また、今年度は、当会が「ひきこもりサポーター養成研修」の実施を香川県から委託され取り組みを行っているところであります。

このように、国並びに県が「ひきこもり問題」に対して取り組みの強化をしていたことは私たちにあってこの上ない喜びであり、大会としてこれまで以上に行政当局と連携を密にして活動することの必要性を痛感しているところです。

これらの状況を踏まえこの度、「社会的ひきこもり」の問題解決のために、これまでの当会の12年間の活動の経験・反省に立ち以下の事項に関して要望させていただきます。

記

1. 県内に「ひきこもり」を専門とする医師・医療機関の確保について

2. 「居場所」活動に対する補助金の交付について

3. 相談活動に対する要望について

4. ひきこもり当事者及び家族に対する訪問活動(アウトリーチ)に関する要望

5. 「居場所」「フリースペース」等を「地域活動支援センター」に位置付ける

6. 中間的就労支援に関する要望

7. 「社会的ひきこもり」に対する啓発活動への補助金の交付について

